

昭和十三年中

S

8560-1

281

H-0 4 6 2

0338

文化
12.3.30
事務部

第二課長

東亞局

第二課長

收
12.4.9
濟

576

文化事務部

公普通第四九一號

昭和十二年三月二十四日

在滿洲國

特命全權大使 植田謙



外務大臣 佐藤 尚武 殿

滿洲國海軍士官兵ノ本邦留學方ニ關スル件

本件ニ關シ本月五日附文化一普通第二五二號貴信御來示ノ趣ハ早速滿洲國側ニ通牒致置タル處今般同國側ヨリ別紙要領ノ通本年度同國海軍士官兵ノ本邦留學方實施可致旨申越セルニ付テハ委細右ニテ御了承ノ上關係當局ヘ右通牒方可然御配慮相煩度此段申進ス

在滿日本帝國大使館

昭和十二年三月廿九日接

S

8560-1

282

H-0462

0339

軍政部訓令第一三九號

茲定康德四年度海軍軍士官兵留學日本實施要領如另紙

康德四年三月九日

軍政部長 于 芷 山



8560-1

283

H-0 4 6 2

0340

另紙

康德四年度海軍軍士官留學日本實施要領

一、留學之目的

養成將來之海軍中堅模範下級幹部

二、留學生

輪機科軍士官兵 一〇名

但依情形得減至七名

留學生之選選依左行之

(一) 志操堅實勤務精勵且宣誓將來為海軍服務長久者

(二) 認為具有能成為准士官之學力才能者

(三) 身體強健者

(四) 粗通日語者

三、留學期間及場所

自六月上旬至十一月下旬

橫須賀海兵團

四、修學科目

(一) 機關術

機關操縱法 焚火術 內火式機械操縱法 電機術工術

(二) 銃隊 短艇運用 手旗信號 銃劍術 體操

五、見學(於日本海軍所許之範圍內)

戰艦 巡洋艦 驅逐艦 航空隊 防備隊 學校 演習 教練

六、居住

團內

七、聯絡員及指導官附

(一) 當留學生入橫須賀海兵團時或退團時為率領及接洽事務派遣教練職員

一名為聯絡員

(二) 留學生留學期間為指導官附派遣江防艦除翻譯一名

八、經理

(一) 津貼



8560-1

285



8560-1

284

H-0462

0341

留學生 月額 九圓
指導官附 月額 二〇圓

(二) 食費

留學生 日本海軍兵食實額
指導官附 日本海軍准士官室額

(三) 往返之旅費依軍政部旅費規則發給之但指導官附另給籌備費及到後津貼

(四) 留學期中所費之教育諸費見學旅費及留學生之食費實額俟留學終了精算之後賠還日本海軍

九報告(各三份)

(一) 實施方案 出發一個月前

(二) 現狀報告 留學中適宜時期

(三) 實施經過成績所見歸國後一個月以內

(完)



8560-1

286

H-0 4 6 2

0342

軍政部訓令第一三九號

康德四年廖海軍軍士官兵日本留學實施要領別紙ノ通定ム

康德四年三月九日

軍政部長 于 芷 山



8560-1

287

H-0 4 6 2

0343

別紙

康徳四年度海軍士官兵日本留學實施要領

一 留學ノ目的

將來海軍ノ骨幹タルヘキ模範下級幹部ノ養成

二 留學生

輪機科士官兵 一〇名

但狀況ニヨリ七名迄減スルコトヲ得

留學生ノ選抜ハ左記ニ依ルモノトス

(一) 志操堅實、勤務精勵ニシテ將來長ク海軍ニ服務スルコトヲ宣誓スルモノ

(二) 准士官タルヘキ學力才能ヲ有スト認ムルモノ

(三) 身體強健ナルモノ

(四) 日本語ノ初步ヲ解スルモノ

三 留學期間及場所

自六月上旬至十一月下旬 橫須賀海兵團

四 修學科目

(一) 機關術

機關操縱法、焚火術、雷火式發射機操縱法、電機術、工術

(二) 銃隊、短艇運用、手旗信號、銃劍術、体操

五 見學 (日本海軍ニテ許可セラルル範圍ニ於テ)

戰艦、巡洋艦、驅逐艦、航空隊、防備隊、學校、並ニ演習教練

六 居住

國內居住

七 連絡員及指導官附

(一) 留學生ノ橫須賀海兵團入團及退團時之カ引率並事務打合セノタメ

連絡員トシテ教練職員一名ヲ出張セシム

(二) 留學生留學期間指導官附トシテ江防艦隊通譯一名ヲ派遣ス



8560-1

289



8560-1

288

H-0462

0344

八 經 理

(六) 手 當

留 學 生 月 額 九 圓

指 導 官 附 月 額 二 〇 圓

(三) 食 料

留 學 生 日 本 海 軍 兵 食 費

指 導 官 附 日 本 海 軍 准 士 官 室 額

(三) 往 返 ノ 旅 費 ハ 軍 政 部 旅 費 規 則 ニ ヨ リ 支 給 ス 但 シ 指 導 官 附 ニ ア リ テ

八 別 ニ 支 度 料 及 着 後 手 當 ヲ 支 給 ス

(四) 留 學 期 間 中 ニ 要 セ シ 教 育 諸 費 、 見 學 旅 費 及 留 學 生 ノ 食 料 實 費 ハ 留

學 修 了 後 精 算 ノ 上 日 本 海 軍 ニ 辨 償 ス ル モ ノ ト ス

九 報 告 (各 三 通)

(一) 實 施 方 案 出 發 一 ケ 月 以 前

(二) 現 狀 報 告 留 學 中 適 宜

(三) 實 施 經 過 成 績 所 見 歸 國 後 一 ケ 月 以 内

(終)



8560-1

291



8560-1

290

H-0 4 6 2

0345

文化事業部

第一課

海軍

次

昭和三年壹月拾六日接受
(木田也)

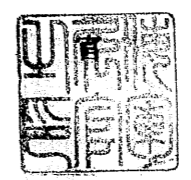
12.1.18
官房第一課

(官房第一九四號)

昭和十二年一月十五日

海軍次

外務次官殿



滿洲國海軍士官候補者ノ本邦留學ニ關スル件回答

昭和十一年文化一普通第五三四號ヲ以テ申越ノ首題ノ件了承致候

追テ兵科士官候補者ニ關スル細目ハ當省ニ關スル限り前年ノ例ニ依

ルコトト承知相成度

但シ留學期間及學校ニ關シ

12.8.10
收

海軍

S 8560-1 292

自同七年(昭和十五年)	一年六箇月	日本海軍砲術學校
至同八年(昭和十六年)	同	水雷學校
	同	通信學校
	乘艦實習	

トノ希望ニ候所第一回留學生ノ實績ニ鑑ミ右ノ中「一年六箇月」ヲ「一年四箇月」ニ、「乗艦實習」ヲ「同航海學校」ニ改ムルヲ適當ト認メ候ニ付其ノ旨先方ニ申入相成度

ニ軍需科士官候補者採用ニ關スル細目ハ當省及在東京滿洲國大使館並ニ駐滿海軍部及滿洲國軍政部門ニ直接協議スルコトト致度

(終)

(木田也)

S 8560-1 293

海軍

H-0462

0346

小冊子

收 12.3.10 通

12.1.18 官房第一課

文化事業部

(官房第一九三號)

第一課

三

昭和十二年一月十六日接受

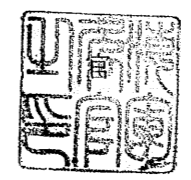
昭和十二年一月十五日

マヤ省ク

長

外務次官殿

海軍次



滿洲國海軍士官候補者及軍士官兵ノ本邦留學ニ

關スル件回答

昭和十一年文化一普通第五三三號ヲ以テ申越ノ首題ノ件了承致候

三月十九日附

(終)

海軍

S 8560-1

294

H-0462

0347

發信用	執務用				
主信					
附	甲				
	乙				
	丙				
	丁				
備考	5-6				

東亞局
第三課長

第二課長
高

收
12.4.14
濟

文書課長	文書課發送	昭和拾貳年四月九日發送済	淨書
主任	第一課長	林	正校(原稿)
管主	文書課長		(合) 淨書
文書	普通	第一六一六	昭十二年
		號	四月八日
			日附
			附屬
昭	和	十	二
年			日
			起草

受	信	人	名	山本海軍次官
發	信	人	名	堀内外務次官
記	錄	件	名	

満洲國海軍軍士官兵ノ本邦留學方ニ関スル件

本件ニ関シ一月十五日附官房第一九三號貴信ヲ以テ御來示ノ趣、在滿植田大使ヲ經テ滿

洲國側へ通牒致置タル處今般同大使

昭和十一年度滿洲國海軍軍士官兵、日本留

學ハ別紙要領、通算員施可致旨申越

呈付委細右ニテ御了知ノ上可然御取計

相成度此段申進ス

追テ本件ハ文部省ニモ申進シ置リ

別紙ニテ留學日本實施要領如另紙一冊其儘添附、下

康徳四年青島附著處康徳四年度海軍軍士官兵

公 信 案

外 務 省

S 8560-1 296

S 8560-1 295 8 106

H-0462

0348



文化事業部

第一課

林

昭和三年四月廿六日接受



第二課

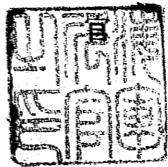
長官

官房第二二一六號ノ二

昭和十二年四月二十四日

海軍次

外務次官殿



滿洲國海軍軍士官兵ノ本邦留學方ニ關スル件回答

文化一普通第一六七號照會首題ノ件差支無之候條御了知相成度

(終)

海軍



8560-1

297

H-0462

0349

文化事業部

昭和三十二年五月六日

昭和三年五月六日 接受



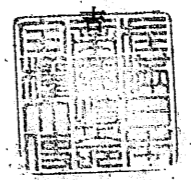
公普通第七一〇號

昭和十二年四月二十八日

在滿洲國

特命全權大使

植田謙



外務大臣 佐藤 尚武 殿

東洋局 第二課長



滿洲國軍政部派遣海軍少尉二名ノ本邦海軍航海
學校入學方ノ件
滿洲國軍政部ニ於テハ今般全部海軍少尉左記二名ヲ本邦海軍航海
學校ニ派遣留學セシムルコト、相成タル趣ヲ以テ右留學斡旋方全
國外交部ヨリ依頼越ノ次第有之タルニ付テハ右關係當局ニ移牒ノ
上何分ノ儀御回示相煩度此段申進ス

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 298

要再回

記

滿洲國軍政部海軍少尉

端 寓
佟 志 杉

以上

在滿日本帝國大使館

S 8560-1 299

H-0462

0350

別紙(寫通右)入學手續終了也。昔回答有之。ハニ
 付右少承上可然以取計相成度以段回報申進ス
 別紙トシテ五月十九日附海軍次官若外務次官宛官房第36(8号)ニ
 (手作成一紙添附)

公 信 案
 外 務 省

S 8560-1 301

發信用	執務用	
主信	/	/
附甲	/	/
附乙		
附丙		
附丁		
備考	56	

收 12.5.26 濟

東 亞 局
 第三課

第二課長
 通

文書課長 九 〇 〇

文書課發送 昭和拾貳年五月廿四日發送濟 淨書
 管主 文化事業部長 了 主任 第一課長 井
 支能一普通 第六三一號 昭和拾貳年五月廿四日 日附 附屬

受 信 人 名 在滿洲國
 植田大使

件 名 滿洲國(軍政部)派遣海軍少尉二名ノ本邦海軍航海
 學校入學方ノ件

公 信 案
 外 務 省

趣了承 仍ニ海軍省へ及照會兼 必今般同省ヨリ

本件ニ関シ四月二十八日附公普承七〇号ヲ以テ以申越

名 件 録 記 佐 藤 大 臣

正校(原稿) (淨書)
 昭和十二年 五月十九日起草

別紙

S 8560-1 300 24 4

H-0462

0351

主信	/	/
附甲	/	/
附乙		
附丙		
附丁		
備考	56	

東亞局 第三課

第二課長 馬

收 12.5.26 濟

公文案

外務省

別紙トシ四月二十日附植田大使發佐藤大臣宛公普通才七一・号
 寫 寧老部作成添附ノ下ト

關之別紙寫、通申越アリタルニ付右御了、上可
 然御取計相成何分、儀御回報相成度此段申進ス

S 8560-1 303

主信	/	/
附甲	/	/
附乙		
附丙		
附丁		
備考	56	

東亞局 第三課

第二課長 馬

收 12.5.26 濟

公文案

外務省

文書課長 山

文書課發送 昭和拾貳年五月拾貳日

管主 文化事業部長 了 任主 第一課長 木

文化一機審 第二二〇號 昭和拾貳年五月拾貳日 附屬

淨書 (原稿) (淨書)

正校 (原稿)

別紙

名件録記 名人信發

山本海軍次官

堀内外務次官

名件 滿洲國軍政部派遣海軍少尉二名、本邦海軍航海學校入學方一件。

今般在滿洲國植田大使ヨリ滿洲國軍政部派遣海軍少尉二名、本邦海軍航海學校入學方二

S 8560-1 302 12-120

H-0462

0352

第二課
回

12.5.20
済

文化
12.5.19
済

文化專業部

長

第一課ノ一
林

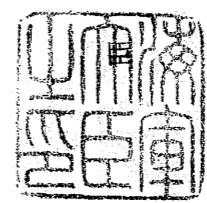
官房第二六一八號ノ二

昭和十二年五月十九日

海軍大

第二課長
原

外務次官殿



滿洲國軍政部派遣海軍少尉二名ノ本邦海軍航海學

校入學方ノ件回答

文化一普通第二二〇號ヲ以テ御申越ノ首題ノ件了承入學手續濟ニ付可然

御取計相成度

(終)

海軍

昭和十二年五月十九日接受
(オカキトシ)

S 8560-1

304

H-0462

0353

外務次官殿

三三六三

H-0 4 6 2

0355



海軍次官

海軍

H-0 4 6 2

0356